

第30回 放送番組審議会議事録

2022年3月

株式会社シーエス・ワンテン

株式会社テレビ朝日

1. 開催年月日 2022年3月

2. 開催場所 書面開催

3. 委員の参加

委員総数 9名 参加 9名

出席委員の氏名

委員長	池井 優 (慶応義塾大学 名誉教授)
委員	黒鉄 ヒロシ(漫画家)
委員	高木 美也子(東京通信大学 人間福祉学部教授)
委員	戸張 捷 (株式会社ランダムアソシエイツ 代表取締役)
委員	丹羽 美之 (東京大学大学院 情報学環教授)
委員	藤田 興彦 (児童育成協会 参事)
委員	前田 純弘 (昭和女子大学グローバルビジネス学部 ビジネスデザイン学科非常勤講師)
委員	元村 直樹 (明治大学法学部兼任講師)
委員	四本 裕子 (東京大学大学院 総合文化研究科准教授)

放送事業者側出席者氏名

株式会社シーエス・ワンテン

代表取締役社長	福田 泉
業務推進本部長	渡辺 慎一

株式会社テレビ朝日

コンテンツ編成局総合編成部 部長	榊原 誠志
コンテンツ編成局総合編成部 担当部長	吉川 大祐
コンテンツ編成局総合編成部	岡田 洋子
コンテンツ編成局総合編成部	宇喜多 宏美
スポーツ局スポーツセンター	五色 智哉
ビジネスプロデュース局 CS 事業部 部長	三平 裕之
ビジネスプロデュース局 CS 事業部 担当部長	谷 俊之

4. 議題

「テレ朝チャンネル1」、「テレ朝チャンネル2」の番組について

◆テレ朝チャンネル1番組審議

『F4 Thailand/BOYS OVER FLOWERS(タイ版「花より男子」)』

<委員意見>

- ・タイの俳優たちはなかなか魅力的だった。
- ・原作での家族設定は東南アジアの各国に共通だから共感を得るのだろう。
- ・タイのドラマは初めて見たが、そのクオリティの高さに驚いた。
- ・原作が書かれたのは30年前なので、いじめのシーンなどを今の価値観に合わせる配慮が必要。
- ・テレ朝チャンネルとして初のタイのドラマを現地との同時放送ということで意欲的・挑戦的な試みである。
- ・日本の視聴者としてはもう少しタイ色や風物が出ていればまた違った興味が持てたのではないか。
- ・番組を国をまたぐダイナミックなコンテンツ流通に絡めるのは、意欲的だと思う。

<番組担当者から>

番組のご視聴、また貴重なご意見を頂きどうもありがとうございました。

1992年から「マーガレット」(集英社)に連載された神尾葉子原作「花より男子」のドラマ化は、2001年に台湾で「流星花園」として大ヒットとなりアジア各国で放送されました。また2005年には日本で「花より男子」、2009年韓国で「花より男子」、2018年中国で「流星花園」として放送。そして2021年12月にタイで「F4 Thailand/BOYS OVER FLOWERS」としてスタートしました。30年を経てもなお愛されるストーリーは、何もかも手にしているハイスペックな4人の男性に囲まれ、たった1人の何もない女の子のシンデレラストoryが世代を超えて視聴者を魅了することによるのかもしれませんが。

ご指摘にありました、いじめのシーンに関しては、近年タイでもいじめや差別に対する問題意識が高まっていることから、監督を務めたパターン・トーンパーン氏もそうした社会問題を強く意識して制作したと語っています。第1話だけではわからないのですが、物語が進むにつれ、主人公のチームはゴヤーを愛することで自分のこれまでの過ちに気づき、赤札を封印すること、また過去にいじめの犠牲になった生徒を1人1人回り、土下座して許しを請うシーン等が登場する内容になっています。

今回、CSテレ朝チャンネルにとって初のタイドラマ編成にトライする中で課題も見えて参りました。委員の皆様から頂いた貴重なご意見を今後の編成の参考にさせていただきます。

◆テレ朝チャンネル2番組審議

『フィギュアスケート PHOTO&MOVIE〜国別対抗戦』

<委員意見>

- ・動きのフィギュアスケートを“止め”の写真に閉じこめるという面白い企画。
- ・国別対抗戦で撮った3~4万枚の中から厳選した写真の解説は、なかなか興味深い。
- ・選手への強い思い入れがあるからこそ、各選手が一番美しいワンカットが撮れるのだろう。
- ・地上波で大会の放送、出版でオフィシャル写真集、CSではアナザーストーリーもとワンソースマルチユースのお手本。
- ・カメラマンのコメントからは、選手毎の姿勢や指先表現の細かな違いなどが頭に入っていることを感じた。
- ・演技の映像をまず見せてから、写真について語っていくという構成でも良かったのではないかとと思う。
- ・テレビの映像からはわからない情報を時間をかけて知ることができ、CSならではの番組だと感じた。

〈番組担当者から〉

この度は貴重なご意見を頂きありがとうございました。

コロナ禍において大会の中止や延期が相次ぎ、選手の取材が制限される中、新しいフィギュアスケートの見せ方や切り口を模索し続けておりました。そこで今回は、私たちが専門とする「映像」ではなく「写真」という別のツールを使用して、フィギュアスケートを表現することに挑戦しました。

内容もかなり深く、マニアックなところまで余すことなく入れ込むことを意識しました。結果、皆さまから「CS ならでは」というお言葉を多く頂戴し、大変嬉しく思っております。

今回頂いた意見を制作陣に還元し、更なる魅力あるフィギュアスケートの番組が制作できるよう挑戦を続けていきたいと思っております。

5. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた 2022 年 3 月以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めています。

6. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

2022 年 4 月以降に、ホームページに審議会概要を掲載ともに、放送番組としても公表する予定です。

7. その他の参考事項

次回の放送番組審議会は 2022 年 9 月に開催予定。

以上